

三重県立看護大学との連携協力に関する協定を締結しました

三重病院 看護部長 野上宏美

病院運営にとって看護師確保対策は重要な課題であることは言うまでもありません。また、単に看護師数を揃えるということだけに止まらず、看護の質の維持・向上にはいずれの病院も腐心されていることと思います。

当院においても、附属看護学校の閉校という看護師確保にあたって大きく方針を変動せざるを得ない歴史をくぐり、歴代の看護部長(総看護師長)方々のご尽力による成果を引き継ぎつつ、更に看護学生に選んでいただけるような病院づくりを目指しているところです。

看護師を確保するうえで、**安心で良質な医療を提供する病院とするため、看護の質の維持・向上は重要な課題であり、その対策の一つとして看護大学との連携があります。**

幸い当院から数キロ離れた位置に1997年三重県立看護大学が、三重県で最初の看護系大学として設立され、さらに2001年には、大学院看護学研究科を同じく県内初として設置されました。以来、当院では、看護大学のもつめに応え、年間を通して、院長はじめ

講師の引き受けや、実習指導者等関係スタッフの協力のもと同校看護学生との臨地実習の受入等々を行い、両者の関係構築に努めてきたものです。

今般、今までの両者の連携状況を踏まえて、更にその連携を深めることを目的に三重県立看護大学との連携協力に関する協定を締結しました。これは今までの連携をより強固なものとするとともに、設置主体が異なることから色々制約はあるとは思いますが、**人事交流による職員育成、現任教育や復職時教育等の新たな取り組みが可能となります。**

本協定の締結は、三重県立看護大学が地域の医療機関等と開かれた関係づくりを目指すという方針と、当院の看護師確保等を目的とする連携づくりの方針が合致し実現したもので、関係者のご尽力のもと、両者の意見を集約し纏めることができました。

現在、看護大学を誘致する病院があるなかで、当院においては、極めて隣接する位置に看護大学が所在していることをあらためて大きな財産(プラスの外部環境)であると認識し、本協定を機会として更なる連携方法を考え、将来に繋がる関係づくりに努めていきたいと思っています。



庵原三重病院院長(右)と
村本三重県立看護大学理事長(左)

医療福祉相談室 だより

退院調整師長の仕事は？

その②～整形外科病棟回診～

整形外科病棟では、毎週水曜日の、整形外科医師、病棟看護師とリハビリテーション科スタッフの回診時に、ソーシャルワーカーと退院調整師長も参加させて頂いています。

回診では、整形外科医師の診察を中心に、リハビリテーション科スタッフからは、リハビリの進行状況、看護師からは看護ケア状況の情報が提供され、私たち医療福祉相談室メンバーも、福祉関係等

の手続きや退院支援・調整の進み具合の情報を提供し、患者様の様子を総合的に判断します。

このように退院調整師長は、患者様の治療にチームとして関わらせていただき、患者様の病状や生活に与える影響を考えた上で、医療・ケア内容の調整を行い、退院に向けて準備させていただいています。

(退院調整師長 仲野 里美)

※ その① 内科病棟カンファレンス は2014年3月号に掲載されています。

